



伏見の歴史

『秀吉の見た伏見の景観』

～指月城・伏見城・宇治川・巨椋池～

(桃山同窓会共同主催)

とき

2015年11月23日(月・祝) 13:30～15:30

ところ

伏見区総合庁舎 1階ホール

参加費

無料 (定員180名・申込不要)

講師

小林大祐

(京都文教大学総合社会学部専任講師)

パネリスト

羽田野聡子氏

(元京都市向島図書館司書)



伏見の地は、雄大な巨椋池の北に位置する水郷の地として平安時代には貴族の別荘が営まれていた。この景観を大きく変えたのが豊臣秀吉の大土木工事でした。太閤堤(小倉堤)を築いて奈良からの街道をつくり、槇島堤で宇治川の流れを変えて港を築きました。稲荷山から延びる丘陵の南端に指月の隠居城や伏見城を築いて城下町を整備しました。宇治川には豊後橋を架け、対岸の向島城で宴を開き、堤には二千本を超える桜を植えました。こうしてできた伏見の城は家康に引き継がれ、徳川三代の將軍宣下が行われるなど約30年の間、日本の中心となりました。秀吉が晩年の6年間を過ごした伏見の城と城下町の景観を歴史資料を見ながら妄想してみます。

<講師紹介>

小林大祐:

研究テーマは、保存修景計画、歴史的地域再生計画、建築設計、建築史、都市史等。
歴史的市街地の景観まちづくりやニュータウンのまちづくり、ヨーロッパを中心に世界遺産を活かしたまちづくりの研究を行う。建築や都市のデザインだけでなく「人のつながり」をつくり直すことによって魅力に溢れ、安心して住み続けられる地域を住民自らの活動によって再生する活動に取り組む。

<パネリスト紹介>

羽田野 聡子氏:

1972年生まれ。平成2年京都市生涯学習振興財団に採用され、京都市向島図書館に配属となる。その後他の図書館へ異動するが、平成23年に再び向島図書館へ異動。向島図書館の事業で、向島の歴史の調査・資料収集を担当したことをきっかけに向島の歴史を紹介する向島歴史講座の講師を担当した。現在、京都市吉祥院図書館勤務。

主催: 京都文教大学フィールドリサーチオフィス・桃山同窓会

問合せ: 京都文教大学フィールドリサーチオフィス(電話)0774-25-2630